

# 平成28年度「東京防災」学習セミナー」コース内容

## ●講師の紹介

- 今野 茂雄 氏 (NPO法人日本防災環境 顧問)  
 斉藤 尚武 氏 (元株式会社総合防災ソリューション)  
 高貝 正芳 氏 (公益社団法人 危機管理協会)  
 鈴木 光 氏 (減災アトリエ主宰、工学院大学客員研究員)

○各コースは、講義内容に応じて、「入門編」「基本編」「発展編」の3つに分かれているので、必ずどれかを選択してください。

入門編：地域防災活動を始めて間もない団体等に対して、「東京防災」を活用した防災の基本的事項を中心に講義を行います。

基本編：地域防災活動を一定期間実施しており、更なる課題への対応を目指している団体等に対して、先進事例紹介や実践的内容を含めた講義を行います。

発展編：地域防災活動を精力的に実施しており、「東京防災隣組」への認定や地区防災計画の策定等の発展的な活動を目指している団体等に対して、団体が抱える課題に対応した内容を中心に講義を行います。

※「入門編」「基本編」「発展編」は全て同じテキストを使用します。

	時間	コース	講義タイトル
講義	30分	「東京防災」を活用した講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大震災シミュレーション」 「東京防災」の「大震災シミュレーション」(p14)から、首都直下地震の被害想定を時系列に沿いながら、「地震発生その瞬間」(p16)「発災直後の行動」(p18)、「自宅に潜む危機」(p20)、「外出先に潜む危機」(p26)、「発災時のNG行動」(p38)までの内容について、実際の体験談や地域の特性を踏まえたポイントを紹介します。</li> <li>「今やろう防災アクション」 「東京防災」の「今やろう！4つの備え」(p80)から、自然災害に備え普段から準備すべき内容として、「物の備え」(p84)、「室内の備え」(p94)、「室外の備え」(p114)、「コミュニケーションという備え」(p122)について、実際の体験談や具体策を交えながら、それぞれのポイントを解説します。</li> </ul>

## ☆「東京防災」とは

各家庭において、首都直下地震等の様々な災害に対する備えが万全となるよう、一家に一冊常備され、日常的に活用できる完全東京仕様の防災ブックです。

平成27年9月1日より各家庭に順次配布を開始し、現在は、1冊140円(税込)で販売しているほか、電子書籍でも取扱いをしております。

詳細は、<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1002147/index.html>をご覧ください。



	時間	コース	講義タイトル
ディス カッ ション	60分	Aコース	<p>「マンションの防災対策」</p> <p>災害に強いと言われるマンションにおいても、発災時には、家具類の転倒・落下・移動やエレベーター内の閉じ込め、ライフライン（電気・ガス・上下水道など）の停止、水・食料・トイレの確保など、様々な問題が起こり得ます。こうした被害を軽減していくための自助・共助のあり方を考えた上で、マンションにおける具体的な防災対策を提案します。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションにおける防災マニュアル作成内容と手順等について</li> <li>・ライフライン停止時や要配慮者がいる状況を踏まえた避難訓練計画について</li> <li>・マンションにおけるトイレ問題（凝固剤の使用、トイレがつまったときの対応）について 等</li> </ul>
		Bコース	<p>「要配慮者・避難行動要支援者への対策」</p> <p>地域には、高齢者や障害者など、発災時に避難行動や避難生活において配慮が必要となる「要配慮者」がいます。災害時における要配慮者の安全の確保には、地域（町会・自治会、自主防災組織など）と地域支援組織（民生委員・児童委員、高齢者相談員）の協力が不可欠です。地域で要配慮者を支援するための手引きや、要配慮者とその家族が準備しておくことについて紹介し、災害時に必要な支援を考えます。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者名簿の整理と活用方法について</li> <li>・要配慮者を避難所まで誘導する場合の支援や準備事項について</li> <li>・地域における要配慮者の避難所への避難訓練計画について 等</li> </ul>
		Cコース	<p>「地域の危険を知るー地域ハザードマップの作成ー」</p> <p>自分たちが暮らしている地域がどのような災害のリスクを有しているのかを地域住民一人ひとりが認識しておく必要があります。これを助けるのがハザードマップです。地域に根差したハザードマップを作ることの重要性について解説し、住民参加によるきめ細かく実効性の高いハザードマップの作り方について解説します。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ作成上の準備、実施要領について</li> <li>・図上訓練（DIG）計画の作成、実施体験 等</li> </ul>
		Dコース	<p>「避難所運営の手順と方法」</p> <p>東日本大震災では、多大な被害の発生に伴い、非常に多くの方が避難所へ避難し、避難所のあり方や運営体制に多くの課題が残りました。それらの課題解決に向けた様々な取組事例を紹介しながら、避難所に集まる全ての方の協力のもとで、地震やその他の災害における避難所運営に活用できるよう、基本的な手順と方法を示します。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開設直後、次いで1日後の状況など段階に応じて予想される避難所運営に係る問題点と対応について</li> <li>・複数の避難所についての比較検討から、自分の地域の避難所にふさわしい準備事項や運営要領について</li> <li>・女性の視点から考える避難所運営マニュアルについて 等</li> </ul>

	時間	コース	講義タイトル
ディス カッ ション	60分	Eコース	<p>「木密地域の防災対策」</p> <p>東京で大地震が発生した場合、木造住宅密集地域（以下「木密地域」という）において、建物の倒壊や同時多発的な火災により大規模な市街地において甚大な被害が発生するおそれがあり、多くの都民の生命と安全が脅かされるばかりか、緊急活動や物流などの東京の都市機能に大きな支障を与える恐れがあります。そこで、木密地域における特有の自助・共助のあり方や被害の特徴について考えた上で、木密地域ならではの事前準備や地域での備えに係る具体的な防災対策を提案します。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木密地域に安全に住み続けるための行動に係る、地域における具体的な対策について</li> <li>木密地域において火災が発生した場合の、共助としての防災対策について</li> <li>地域における強風下に大規模な火災が予想される場合の避難訓練計画について</li> </ul>
		Fコース	<p>「風水害・土砂災害への対策」</p> <p>近年東京都では、気候変動等により記録的な豪雨が頻繁となり、更に進んだ市街化と相まって、都市部を中心として地下鉄などへの浸水被害に象徴される都市型水害が多発しています。また、平成25年10月には、台風26号により、大島町で大規模な土砂災害が発生するなど、迫りくる風水害・土砂災害の危険性に備えることは、非常に重要です。そこで、地震災害とは異なる風水害・土砂災害ならではの事前準備や、地域での備えに係る具体的な防災対策を提案します。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域に潜む風水害・土砂災害のリスクの洗い出し及び具体的な対応策について</li> <li>情報収集、警報・注意報・特別警報の発令、避難等の段階ごとの対策について</li> <li>豪雨による土砂災害発生が予想される場合の避難訓練計画について</li> </ul>
		Gコース	<p>「被災経験者または被災地支援経験者に学ぶ」</p> <p>阪神・淡路大震災や東日本大震災での実際の被災経験談、または被災地支援経験談を軸に、現地での様子、人々の心情、女性の立場等、様々な視点から、災害の広がりとその回避方法を考えます。想像や映像ではなく、実際に体験しているからこそわかる様々な状況想定を行い、個人や地域で何が必要なのかを考え、防災対策へと繋がります。</p>
			<p>(ディスカッションテーマ例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の震災の教訓を地域の自助・共助にどのように活かすかについて</li> <li>過去の震災の実例を基に、自分たちの地域でできること・改善が必要な事項に係る検討について</li> <li>過去の教訓や事例を基に、女性にとって改善が必要なことや精神的被害を受けた方の心のケアについて</li> </ul>